

環境経営レポート2022年度版

2022.05.01～2023.04.30

ver.1.1



発行日2023年6月16日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

目次

1. 会社概要・対象範囲	1	③ 廃棄物の排出量	12
2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり	2	④ 環境対応商品の売上高	13
3. 環境経営方針	3	6. グリーン購入について	14
4. 環境経営組織図	4	7. 環境啓発活動	15～16
5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧	5	8. 環境関連法規	17
①- a 電力使用量	6～8	9. 中期環境経営目標設定（2021年度～2023年度）	18
①- b ガソリン使用量	9	10. 代表者の総括	19
①- c CO2排出量	10		
② 水使用量	11		

1. 会社概要・対象範囲

■会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆従業員数 20名（就業役員を含む）
- ◆事業内容 文具・紙製品の製造卸、小売業、賃貸業
- ◆事業所
 - 本社・小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25
床面積：173.73㎡
 - 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
床面積：301.69㎡
- ◆環境管理責任者 業務部主任 湯本祥子

◆事業規模

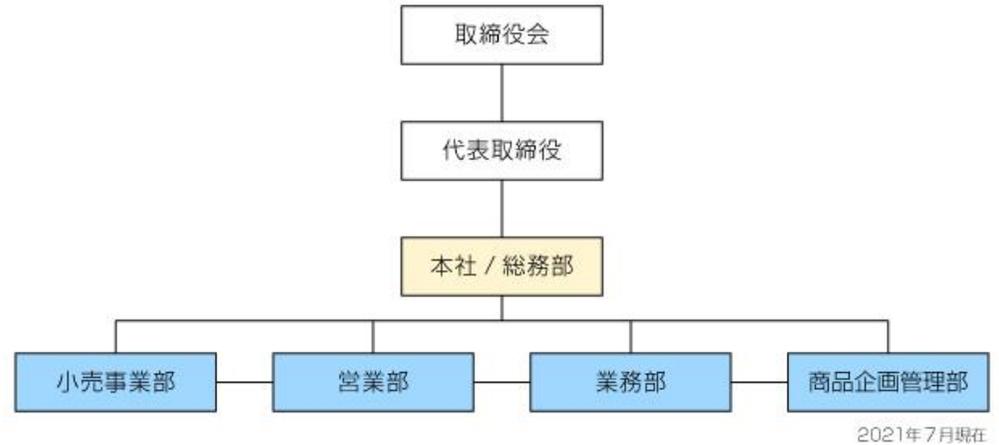
	2020年度	2021年度	2022年度
売上高(万円)	74,800	72,900	77,600

決算期末（6月）売上高

■対象範囲

- ①対象とする組織：全組織
- ②対象とする人員：全従業員
- ③対象とする事業活動：全事業活動

■組織図



◆主力商品



プリンタ用紙



祝儀・その他文具

2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり



目標4〔質の高い教育をみんなに〕

- 子どもたちへの教育環境・備品等の支援
(公財オイスカ こどもの森計画、WWF ソーラーライト
チャレンジ) →P13, 15, 16



目標14〔海の豊かさを守ろう〕

- サンゴ礁保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 海洋プラスチック問題への取組 (東京ベイ・クリーン
アップ大作戦) →P13, 15, 16



目標7〔エネルギーをみんなにそしてクリーンに〕

- クリーンエネルギー (太陽光発電) の利用
- 化石燃料に頼ったエネルギー使用を削減する
→P6, 7, 8, 9



目標15〔陸の豊かさも守ろう〕

- グリーン購入法適合品の積極的利用
- 希少動物保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 地球の緑化活動支援 (公財オイスカ こどもの森計画)
→P13, 14, 15, 16



目標12〔つくる責任つかう責任〕

- 廃棄物の分別・再利用を含めた削減
- 持続可能な製品の製造・販売に寄与する
→P12, 13



目標17〔パートナーシップで目標を達成しよう〕

- 公財オイスカ、WWFジャパンとのパートナーシップ
→P15, 16



目標13〔気候変動に具体的な対策を〕

- 地球温暖化対策としてCo2削減の取り組み
→P6, 7, 8, 9, 10



3. 環境経営方針

株式会社長門屋商店は、私たちの未来のため、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現と継続的な環境負荷の低減を推進します。

1. 事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、SDGsを見据えた社会的貢献を目指します。
2. 環境関連の法令・規則を遵守すると共に、ステークホルダーと協力的な関係を確立します。
3. 商品の製造から販売に至るまで『サステナビリティ』を追求し、環境負荷の低減に努め、以下を実施します。
 - a. 製造にあたっては企画の段階から環境負荷の小さい主原料や副資材を積極的に採用します。
 - b. 流通過程においては、エネルギーの無駄使いを徹底的に排除するとともに、廃棄物の削減と排出抑制を図ります。
 - c. 間接支援型環境商品の販売を通じて売上の一部を森林保護や海洋保全団体等の環境保護活動へ役立てます。
 - d. 小売事業においては、レジ袋削減をはじめとした『脱プラスチック』に取り組み、これを推進します。
4. 限りある資源の保全を目的に省エネ・省ゴミ活動を普遍的に継続し、企業価値及び文化的水準の向上へと繋がります。
5. 環境経営における目標・計画・実施状況については、全従業員に周知徹底すると共に、「環境経営レポート」として公表します。

改訂：2022年5月1日

改訂：2018年5月1日

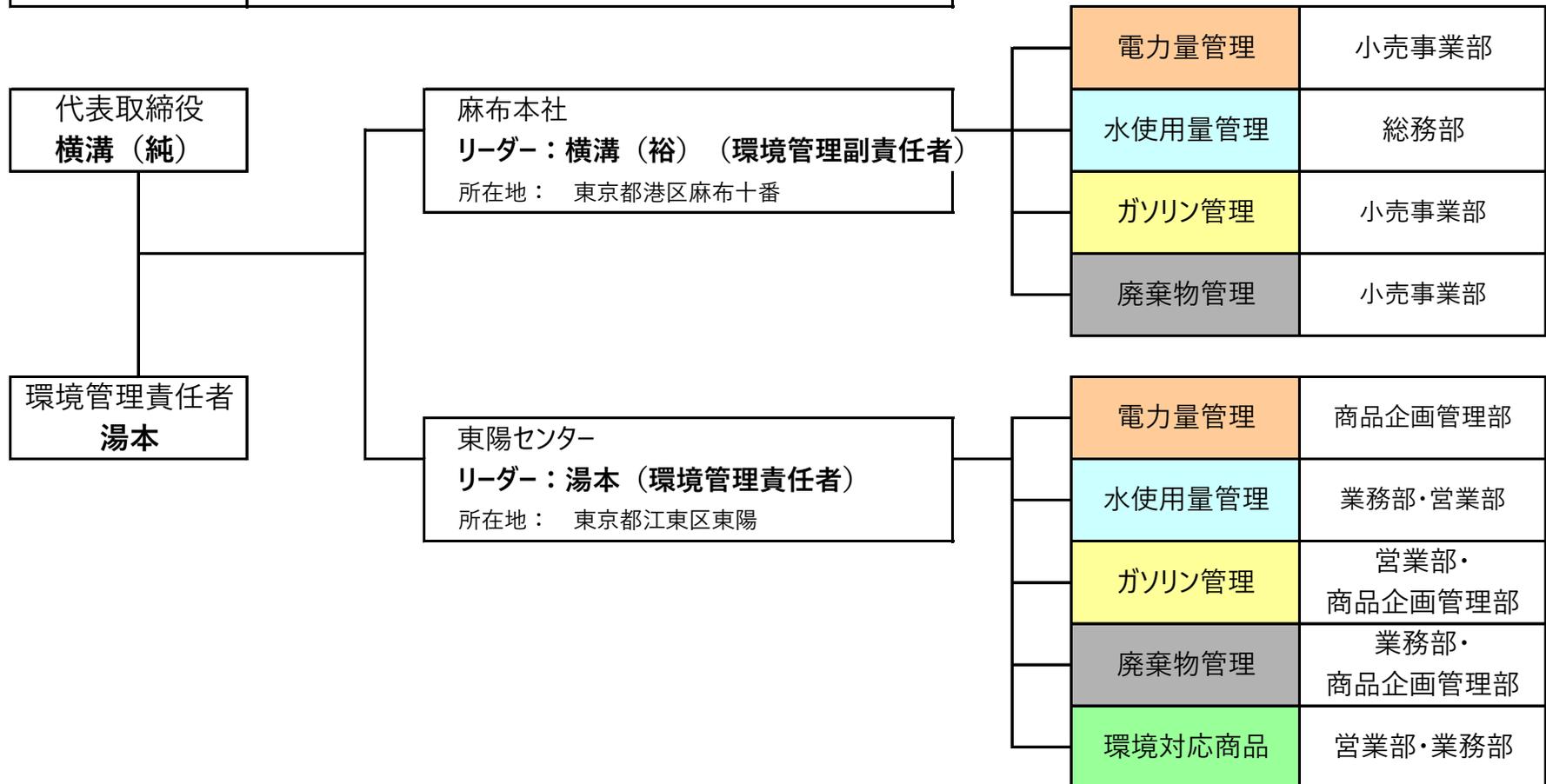
制定：2006年11月01日

株式会社 長門屋商店
代表取締役 横溝純一

4. 環境経営組織図

〔役割・責任・権限〕

代表取締役	環境経営方針の策定、環境管理責任者の指名、必要な資源を準備、目標値と実行計画の作成・是正指示
環境管理責任者	環境経営システムの維持、環境経営レポートの作成、各部署の運用状況の把握、定期ミーティングの開催
各部署担当	月次の数値の記録、定期ミーティングにおいて運用状況の報告



5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧

実施事項	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	目標達成率
①- a 電力使用量	49,716kWh	51,404kWh 前年対比 +3.4%	49,500kWh (対2021年度-0.4%)	目標対比 +96.3% ×
①- b ガソリン使用量	5,316リットル	3,741リットル 前年対比 -29.6%	5,070リットル (対2021年度-4.6%)	目標対比 +135.5% ◎
①- c CO2 排出量※	32,552kg-CO2	27,899kg-CO2 前年対比 -14.3%	32,100kg-CO2 (対2021年度-1.3%)	目標対比 +115.1% ◎
② 水使用量	148m3	151m3 前年対比 +2.0%	147m3 (対2021年度-0.6%)	目標対比 +97.4% ×
③- a 廃棄物の排出量 可燃ごみ (熱回収)	502.2kg	481.2kg 前年対比 -4.2%	495.0kg (対2021年度-1.4%)	目標対比 +102.9% ◎
③- b 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3510.1kg	3778.8kg 前年対比 +7.7%	3460.0kg (対2021年度-1.4%)	目標対比 +91.6% ×
④ 環境対応商品の売上高	22,394万円	23,612万円 前年対比 +5.4%	22,800万円 (対2021年度1.8%)	目標対比 +103.6% ◎

1)CO2排出量使用排出係数について、購入電力は0.000457 (東京電力エナジーパートナー) または0.000485 (楽天モバイル) [単位: t-CO2/kWh]、ガソリンは2.32166 [単位: kg-CO2/l]を使用

2)◎は設定目標達成 ○は設定目標に及ばずも前年実績より良好 △は前年実績並 ×は目標、前年実績ともクリアできず

3)環境経営目標達成率が90%を下回る場合、また環境関連法規および法令の遵守が認められない場合に、是正・予防処置ならびに報告をするものとする

環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その1/実績一覧）

SDGs 該当項目 ⇒



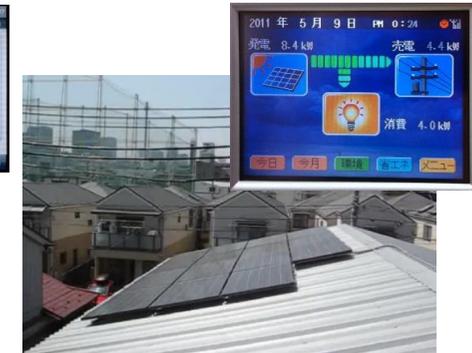
本社ビル	2020年度	2021年度	2022年度
購入電力量(1)	28,325kWh	27,941kWh	26,673kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	814kWh	716kWh	3,439kWh
実質電力使用量(1)+(2)	29,139kWh	28,657kWh	30,112kWh
前年比		98.35%	105.08%

東陽センター	2020年度	2021年度	2022年度
購入電力量(1)	15,606kWh	14,217kWh	14,482kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	4,934kWh	6,842kWh	6,810kWh
実質電力使用量(1)+(2)	20,540kWh	21,059kWh	21,292kWh
前年比		102.53%	101.11%

全社合計	2020年度	2021年度	2022年度
購入電力量(1)	43,931kWh	42,158kWh	41,155kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	5,748kWh	7,558kWh	10,249kWh
実質電力使用量(1)+(2)	49,679kWh	49,716kWh	51,404kWh
前年比		100.07%	103.40%



本社 ソーラー設備 9.8kw
 今期の年間発電量：7919kWh
 2012年4月からの累計：109444kWh



東陽センター ソーラー設備 [10kw]
 今期の年間発電量：11026[kWh]
 2010年8月からの累計：141423[kWh]

前年対比 +3.40%

※太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

環境経営目標実施要項①- a 電力使用量（その2 /取組内容） SDGs 該当項目⇒



↑ LED電球およびLED蛍光灯



←温度管理へのさまざまな工夫

■継続取組

- エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等
- 事務所にすだれの設置
- 温度計を使用して室温管理
- 個別の消灯
- OAタップによる待機電流OFF

●残業時間の推移 [時間]

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
2021年5月～2022年4月	127.4	118.1	118	110.2	53.85	99.9	107	104.15	116.15	87	104.55	109.1
2022年5月～2023年4月	90.7	96.1	97.7	100.15	108.8	103.2	78.15	110.3	104.7	150	107.15	132.7

●東京 最低気温と最高気温の月平均値 [※気象庁の観測データより]

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
最高気温	2021年5月～2022年4月	24.1	27.3	30.3	31.6	26.2	22.7	18.6	12.5	9.4	10.5	16.6	20.2
	2022年5月～2023年4月	23.5	27.6	31.7	32	28.8	21.5	19.1	12.2	10.2	12.1	17.9	21.7
最低気温	2021年5月～2022年4月	15.7	19.4	22.9	24.3	19.3	14.7	9.7	4	1.1	1.1	6.1	11.1
	2022年5月～2023年4月	14.8	19.6	24.4	24.3	21.1	13.8	10.7	3.7	1.8	3	8.6	11.9

●月次電力使用量（2022年5月～2023年4月）

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	年間
麻布本社	前年実績	1726	1860	1934	2061	2416	2329	1928	1807	2799	3516	3394	2886	28656
	当年実績	2164	2028	2354	2560	2455	2357	1915	2035	3223	3416	3207	2399	30113
東陽センター	前年実績	957	1470	2115	2004	2143	1545	1223	1724	1912	2446	1845	1675	21059
	当年実績	1145	1281	2397	2225	2440	1430	1140	1626	1816	2720	1582	1491	21293
合計	前年実績	2683	3330	4049	4065	4559	3874	3151	3531	4711	5962	5239	4561	49715
	当年実績	3309	3309	4751	4785	4895	3787	3055	3661	5039	6136	4789	3890	51406
	前年比	123.33%	99.37%	117.34%	117.71%	107.37%	97.75%	96.95%	103.68%	106.96%	102.92%	91.41%	85.29%	103.40%

(単位：kWh)

環境経営目標実施要項①- a 電力使用量（その3 / 評価・次年度へ）

SDGs 該当項目⇒



2018/5導入 新型LED照明(全9台)



2018/5完成 新作業室



2018/5導入 新作業室用エアコン

■今年度の評価

〔本社ビル〕

前年比約5%の増となりました。今年は梅雨明けが早く、暑い日が長かった事や、本社ビル外壁工事などの外的要因も重なった事が要因と考えます。

〔東陽センター〕

微増ですが例年通りの結果となりました。全員が節電の意識をもって行動が出来たと言えます。

■次年度へ

次年度も引き続き、エアコン、電気の使用を最低減に留めるべく、サーキュレーターやヒーターなどを上手に利用し高い意識で取り組みます。新しい社員も増えますので、再度教育・啓発の上、目標に向け全社一致で取り組みたいと考えております。

環境経営目標実施要項①- b ガソリン使用量

SDGs 該当項目 ⇒



出発前の車両



低燃費運転の心がけを車両内に表示



発送前商品

⇒ 運送会社の発送を積極的に活用

	2020年度	2021年度	2022年度
ガソリン使用量	5,446L	5,316L	3,741L
前年比		97.61%	70.37%

前年対比 -29.6%

【参考】全車の年間走行距離と一台あたりの燃費

	2020年度	2021年度	2022年度
全車合計走行距離	60869km	60150km	53733km
前年比		98.82%	89.33%
一台あたり燃費	11.17km/L	11.31km/L	14.36km/L
前年比		101.25%	126.97%

■ 継続取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
 - ① アクセルワーク51%以下
 - ② アイドリングストップ
 - ③ エアコンは控え目
 - ④ タイヤの空気圧チェック
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■ 評価・次年度へ

電動バイクの導入に加え、営業車も1台運用廃止となったことで大幅なガソリン使用量の削減となりました。
次年度はこの数字がベースとなりますので、更なる目標を達成できるように引き続き低燃費運転に努めます。

環境経営目標実施要項①-c CO2排出量

SDGs 該当項目 ⇒



CO2排出係数		2022年度使用数値
購入電力	東京電力エネルギーパートナー使用分	0.000457 t-CO2/kWh
	楽天エネルギー使用分 (東陽センター-2019年10月分より)	0.000485 t-CO2/kWh
ガソリン	EA21ガイドライン	2.32166 kg-CO2/l

※2022年度の購入電力の係数は2023年1月24日公表値の実排出係数に拠ります。

全社合計		2020年度	2021年度	2022年度
本社ビル	排出CO2	12,944kg-CO2	12,490kg-CO2	12,190kg-CO2
購入電力	購入量	28,325kWh	27,941kWh	26,673kWh
東陽センター	排出CO2	8,334kg-CO2	7,720kg-CO2	7,024kg-CO2
購入電力	購入量	15,606kWh	14,217kWh	14,482kWh
全社ガソリン	排出CO2	12,644kg-CO2	12,342kg-CO2	8,685kg-CO2
使用量	使用量	5,446L	5,316L	3,741L
排出CO2総量		33,922kg-CO2	32,552kg-CO2	27,899kg-CO2
前年比			95.96%	85.71%

【参考】

	2020年度	2021年度	2022年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	45.35 kg-CO2/万円	44.65 kg-CO2/万円	35.95 kg-CO2/万円
前年比		98.46%	80.52%

オフセット計算	2022年度
本社ビル 総発電量	7,918kWh
東陽センター 総発電量	10,158kWh
発電量合計	18,076kWh

※計測端末の値を引用

購入電力での排出量

⇒ 8,546kg-CO2 相当

購入分より差引 ↓

太陽光発電によるオフセット後の排出量 19,353kg-CO2

※なお、昨年のオフセット後の排出量は 23,255kg-CO2でした。
(前年比約16.8%減)

前年対比 -14.29%

環境経営目標実施要項② 水使用量



本社ビル	2020年度	2021年度	2022年度
上下水道使用量	47m3	50m3	50m3
前年比		106.38%	100.00%

東陽センター	2020年度	2021年度	2022年度
上下水道使用量	104m3	98m3	101m3
前年比		94.23%	103.06%

全社合計	2020年度	2021年度	2022年度
上下水道使用量	151m3	148m3	151m3
前年比		98.01%	102.03%

■継続取組

- 雨水を貯水して清掃や洗車や植木の水やりに使っています。
- 節水コマを取り付け流量を絞り、ムダを省くよう取り組んでいます。

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕

新入社員がメンバーに加わり人数が増えた中で、昨年と同じ使用料で終了することができました。継続にはなりますが、怠ることなく、再度、節水意識を共有し努めたいと考えております。

〔東陽センター〕

ボウフラ対策のため雨水の利用を廃止、洗車や清掃に使用する水量が影響したと思われます。人員と施設が増えますので、啓発はもとよりトイレタンク、手洗いの蛇口など、節水装置を用いて物理的な節水に取り組みます。

前年対比 +2.0%

環境経営目標実施要項③ 廃棄物の排出量

SDGs 該当項目 ⇒



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 3種の分別ゴミ箱を用意しています。

③- a 可燃ごみ (熱回収)

熱回収	2020年度	2021年度	2022年度
本社ビル	27.4kg	27.7kg	34.7kg
東陽センター	456.1kg	474.5kg	446.5kg
合計	483.5kg	502.2kg	481.2kg
前年比		103.87%	95.82%

前年対比 **-2.8%**

③- b プラ・古紙・ダンボール (再生)

再生	2020年度	2021年度	2022年度
本社ビル	522.7kg	894.0kg	552.4kg
東陽センター	2873.8kg	2616.1kg	3226.4kg
合計	3396.5kg	3510.1kg	3778.8kg
前年比		103.34%	107.65%

前年対比 **+9.2%**

■継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用 ● ダンボールの再利用
- 古紙やプラの分別回収 ● ペーパーレスの促進
- ペットボトルとキャップの分別収集

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕

昨年にあった大幅な古紙破棄が今年は無かった事が大きく減少した要因と考えます。一方で可燃、不燃ごみの増加は商品仕入の増加に伴い、緩衝材等の破棄分が考えられます。次年度はまとまった発注等、対策をし減少出来る様、努めます。

〔東陽センター〕

可燃ごみが増加した際は全員に改善のアナウンスをし、すぐに分別の修正が出来たことで廃棄量の削減に繋がりました。一方で再生材料が分別によって増加、また仕入れの増加に伴い梱包資材の再利用も徹底しましたが、それを上回る廃棄量となっていました。売上の増加に比例してしまうので仕方のない部分ではありますが、引き続き分別廃棄に取り組めます。

環境経営目標実施要項④ 環境対応商品の売上高

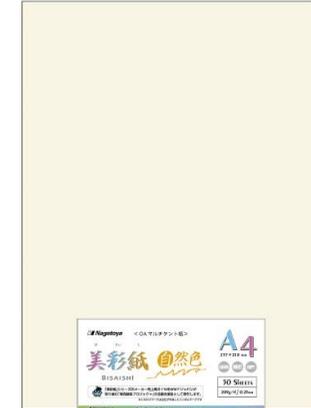
SDGs 該当項目⇒



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙「ホワイトペーパー-R」シリーズ



売上の一部をWWFジャパンの南西諸島保全へ寄付している「美彩紙」シリーズ

- 対象商品 (下記いずれが含まれているもの)
- ①売上の一部を環境保全団体に寄付している。
 - ②原料に廃材や再生材を使用している。
 - ③非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ
 コロナの影響が薄くなっていくにつれ経済活動が復活し、結果的に製品の売り上げ増加に繋がりました。自社製品としての環境対応商品が少ないので、次年度以降商品開発という方面にも注力出来ればと考えます。

	2020年度	2021年度	2022年度
環境対応商品	20,777万円	22,394万円	23,612万円
前年比		107.78%	105.44%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

前年対比 5.44%

6. グリーン購入について

SDGs 該当項目 ⇒



♣グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりませんが、以下の通り意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

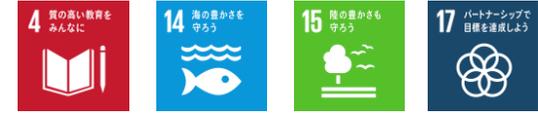
■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



7. 環境啓発活動 (1)

SDGs 該当項目 ⇒



－WWF「南西諸島プロジェクト」支援－

WWFジャパンが進める「南西諸島プロジェクト」（南西諸島エコリージョン）は、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島の生態系保全を目的とした取り組みです。以前取り組んでいたWWF「しらほサンゴ村」支援に引き続き、「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。

（2022年度実績：366,897円）



NANSEIちゃん

特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサンゴ」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク・通称NANSEIちゃんです。「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



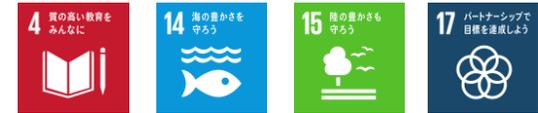
－オイスカ「子供の森」計画支援－

公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画は、こどもたち自身が学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていくという森づくり運動です。寄付金の一部は学用品や学校施設への教育支援としても使われます。弊社カラーペーパーシリーズの売上の一部をこの計画に寄付しております。



環境啓発活動 (2)

SDGs 該当項目 ⇒



－ ワクチンキャップ活動 －

ワクチンキャップ 受領書

株式会社長門屋商店

年月日	受領重量	キャップ数	ポリオワクチン換算本分
2022/5/13	22.1kg	9,486 個	5.5 本分
2022/11/29	10.1kg	4,343 個	2.5 本分
計	32.2kg	13,829 個	8.0 本分
総計	32.2kg	13,829 個	8.0 本分

※1 1kgは換算8本分相当と見做す。換算率はポリオワクチンP.O.L.S.とWHOの500mg/1000錠を1本と見做す。換算率は0.8本分相当と見做す。

※2 換算率はポリオワクチン換算8本分相当と見做す。

飲み終わったペットボトルのキャップを全社で回収し、東京ペットボトルリサイクル株式会社を通じてワクチンキャップ運動に参加しています。
2022年度実績：キャップ重量32.2kg(13,829個)
ポリオワクチン換算8本分相当



－ 巻き芯ECOプロジェクト －



ニチバン株式会社が取り組む「巻き芯ECOプロジェクト」に参加しています。
使い終わったテープの巻き芯が集められ、ダンボールへの再生や再生材の換金で国内外の植樹活動に役立てられます。
毎年10～20kg相当が回収できるため、環境保護活動の一端を担えると同時に廃棄物の削減に繋がっています。

－ 東京ベイ・クリーンアップ大作戦 －

「東京港を泳げる海に！ハダシで歩ける砂浜に！」をスローガンに毎年3回、地球環境の保全と泳げる海をめざして、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団（Kissポート財団）が主催する東京都お台場海浜公園で行う清掃活動に、レジ袋廃止に伴う手提げ紙袋の売上を協賛金の形で支援しています。

8. 環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境への負荷の低減の取組 ■ 自動車公害対策（アイドリングストップ） 	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理 	○	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水銀を含む廃棄物に関する対応 	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業系一般廃棄物に関して 	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業者の責務・減量義務等 	○	遵守
江東区環境基本条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第7条（事業者の責務）ほか 	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■ 商品包装への識別マーク表示 ■ 上記の包装資材の再商品化義務 	○	遵守
家庭用品品質表示法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障子紙が該当 	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常使用の範囲 	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査 	○	遵守
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自賠償・納税・走行ルール 	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ リース会社・販売会社に委託 	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
小型家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用済みの事業系パソコンの排出 	○	遵守
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設置のパッケージエアコン等の簡易点検 	○	遵守

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。

関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

2023年6月現在

9. 中期環境経営目標設定（2023年度～2025年度）

実施事項	2022年度実績	2023年度目標	3か年での中期目標
①- a 電力使用量	51,404kWh	51,200kWh 前年対比 -0.4%	2024年度 51,000kWh (対2022年度-0.7%) 2025年度 50,800kWh (対2022年度-1.1%)
①- b ガソリン使用量	3,741リットル	3,700リットル 前年対比 -1.1%	2024年度 3,650リットル (対2022年度-2.4%) 2025年度 3,600リットル (対2022年度-3.7%)
①- c CO2 排出量 (※)	27,899kg-CO2	27,500kg-CO2 前年対比 -1.4%	2024年度 27,250kg-CO2 (対2022年度-2.3%) 2025年度 27,000kg-CO2 (対2022年度-3.2%)
② 水使用量	151m3	150m3 前年対比 -0.7%	2024年度 149m3 (対2022年度-1.3%) 2025年度 148m3 (対2022年度-1.9%)
③- a 廃棄物の排出量 可燃ごみ (熱回収)	481.2kg	475.0kg 前年対比 -1.3%	2024年度 470.0kg (対2022年度-2.3%) 2025年度 465.0kg (対2022年度-3.3%)
③- b 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3778.8kg	3750.0kg 前年対比 -0.8%	2024年度 3725.0kg (対2022年度-1.4%) 2025年度 3700.0kg (対2022年度-2%)
④ 環境対応商品売上高	23,612万円	24,000万円 前年対比 +1.6%	2024年度 24,500万円 (対2022年度+3.7%) 2025年度 25,000万円 (対2022年度+5.8%)
⑤ 従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※CO2排出量使用排出係数について、購入電力は0.000457（東京電力エナジーパートナー）または0.000485（楽天エナジー）〔単位：t-CO2/kWh〕、ガソリンは2.32166〔単位：kg-CO2/l〕を使用

10. 代表者の総括

■代表者による総括と改善指示

【当該年度の総括】

世界中をパンデミックに陥れた新型コロナウイルスが国内で5類感染症に移行されたことで、様々な行動制限が解除されると同時に多くの外国人の観光客が日本を訪れるようになってきております。我々の街も賑わいを取り戻し、経済活動もコロナ前の水準にまで持ち直したと感ぜられるようになって参りました。私共も本来の企業活動を執り行える環境となり、おかげさまで今期決算における売上高は過去最高の値を見込める状況にあります。

今年度の環境経営目標及び環境経営計画においては、前年度に引き続き「ガソリン使用量」の大幅な削減を達成しました。ルート配達兼営業用として使用していた車両を1台減車したことが大きな要因です。減車によって運送会社への外注量が増加することになったのを機に、新規で採用した運送会社様と商品の届先となる一部の得意先様とにご協力を頂き、折り畳み式コンテナを利用した循環型の配送システムへの取り組みを開始いたしました。これにより、廃棄物となりうる梱包資材の2次的排出を抑制することを実現し、併せて経費の削減を図ることが出来ました。しかし一方で、景気回復に伴う在庫物品の増加によって、庫内の廃棄物（段ボール等の再生廃棄物）が増加傾向にあり、今後の課題となっております。（前年対比+9.2%）

また、電力使用量も増加傾向にあります。パンデミックにより停滞していた経済活動再開に起因する部分も考えられますが、昨今夏季の電力不足も懸念されておりますので、今一度社内の節電意識の徹底を図りたいと考えております。

最後に環境対応商品の売上高については、確実な伸長を示しており、評価に値する実績として捉えおります。環境経営方針については、SDGsを見据えた方針として設定しておりますが、社員達への意識づけの為の活動が不十分と感じております。また実施体制についても少々マンネリ化を感じる部分が生じはじめている為、この2点については教育と再編が必要とされます。

【次年度の見直しや改善指示】

環境経営方針の一部を改訂いたします。次年度は木場オフィスの新設に伴い活動対象となる事業所を追加します。これに伴い実施体制を再編して活動に取り組んで参ります。環境経営目標及び環境経営計画については変更なく継続して参ります。

目標未達となった「電力使用量」と「廃棄物の排出量（再生）」の項目については、担当者へ原因の把握を行うことを求め、削減目標を見直すよう指示いたしました。

2023年6月15日
代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<https://www.nagatoya.com>